

具体的な内容について

研究テーマ	内容
<p>探究学習の基礎スキルの習得</p>	<p>次年度から、個人もしくはグループでの探究学習が本格的に始まる。それに向けて、探究学習に必要な基礎的なスキルの習得を目指した。具体的には、ブレインストーミングでアイデアの出し方、KJ法やウェビングマップ、フィッシュボーンでアイデアの整理法を学習した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>新聞記事の作成</p>	<p>次年度から始まる探究学習の課題設定に向けて、自分の興味関心のある分野について、新聞記事を作成した。新聞記事の基本的な構造や内容について、およびインタビューの方法について、実際に記事を書いている福井新聞社の新聞記者をお呼びし、特別授業を行った。作成にあたり、インタビューを実施すること、その内容を記事にすることとした。その後、個人で新聞記事を作成し、クラス内のグループで相互評価を行った。</p> <div style="display: grid; grid-template-columns: 1fr 1fr; gap: 10px;">     </div>

外部講師による活動（各教科・部活動での取組）

令和元年7月18日（木） 吉川ナスの収穫体験

鯖江高校のクッキング部の生徒が、鯖江市役所農林政策課のご協力をいただき、生産農家さんのビニールハウスで収穫体験を行った。収穫の方法だけでなく、品種改良されていない「吉川ナス」独特の栽培の難しさなど、多くのことを学んだ。後にこの吉川ナスを使って、新しいレシピ作りに取り組んでいく。

吉川ナス・・・鯖江の伝統野菜で7月～10月が旬。光沢のある黒紫の色をした約300gのソフトボール大の丸ナス。栽培技術や品質の高さ、地域や出荷先等の評判、品種改良されることなく今日まで継承されてきた歴史などが高く評価され、伝統野菜としては全国初の地理的表示保護制度に登録された。

（参照 地域協働ニュース第2号）

令和元年7月31日（水） クッキング部が地元野菜の吉川ナスを使ったレシピを発表

収穫体験でお世話になった生産農家の方々や、鯖江市役所の方々、そして本校卒業生である鯖江市内の洋食ビストロ「シトラス」の青柳彰彦氏を招き、試食会を実施した。青柳氏から調理の指導を受けながら調理し、完成した料理を、マスコミ関係者も含め、全員で試食をした。

（参照 地域協働ニュース第2号）

令和元年8月22日（木） 地学基礎 特別授業

2年文系の地学基礎を受講する生徒に、講師として株式会社「田中地質コンサルタント」代表取締役の田中謙次氏を招き、「鯖江の地質や地形から分かること」をテーマとして特別授業をしていただいた。この特別授業を受けて2学期の地学基礎の授業で、鯖江市が公開している「災害時サポートガイドブック」や他地域の防災ガイドなどを用いて、身近な防災に関する授業を展開し、防災に関する知識や防災に対する意識を深めていった。

（参照 地域協働ニュース第3号）

令和元年10月9日（水） 「子どもの発達と保育」の出前授業

3年文系の「子どもの発達と保育」を受講する生徒たちに、講師として鯖江市保育・幼児教育室の森友万貴氏を招き、保育の現状について」をテーマとして出前授業をしていただいた。この特別授業を受けて「子どもの発達と保育」の授業を通して、鯖江市の保育事情に関して、資料やインターネットなどをも活用して調べ、デジタルパンフレットにまとめる活動を行った。

（参照 地域協働ニュース第5号）

令和元年10月30日（水） 1年生「総合的な探究の時間」特別授業

1年生「総合的な探究の時間」における新聞記事づくりのため、福井新聞社の藪内弘昌氏を招き、伝わりやすい文章の書き方やインタビューの方法などについて、講義していただいた。この特別授業を受けて、各自で新聞づくりをするために課題を考え、インタビューなどを通して探究し、記事にまとめて発表するミニ課題研究活動を展開していった。

令和元年11月14日（木） 音楽 特別授業

民族楽器の収集家である森眞一郎氏を招き、3年生の音楽選択者を対象に特別授業を行った。カリンバ、カホン、アンプロン、アフリカン太鼓といった、東南アジアやアフリカの伝統的な民族楽器の紹介と演奏法を指導いただいた。その後も音楽の授業でそれぞれの楽器の練習を行い、12月8日に誠市でその成果を発表した。

（参照 地域協働ニュース第7号）

令和元年12月8日（日） 誠市での民族音楽の発表

11月14日の特別授業からの流れで、鯖江市誠照寺で毎月1回開催されている蚤の市「誠市」において、3年生音楽選択の生徒が、特別授業で学んだ民族音楽の練習成果を地域の方々に発表した。

（参照 地域協働ニュース第9号）

令和元年12月11日（水） 音楽鑑賞講座

地域で活動する音楽家3名の方に来校していただき、1年生2組、4組の生徒を対象に音楽鑑賞講座を行った。来校いただいた講師の方は、声楽家ソプラノの天勝まゆみ氏、フルート奏者の辻好氏、ピアノ奏者の嶋崎実紀氏の3名で、日ごろの活動を教えていただくとともに演奏を聴き、地域の芸術活動について理解を深める授業をしていただいた。

（参照 地域協働ニュース第8号）

令和2年1月28日（火） 数学 特別授業

2年生文系の数学の授業で、福井銀行より講師として米岡慎一郎氏を招き、ローンの金利の仕組みを等比数列・等差数列を使って解説する特別授業をしていただいた。この授業によりこれまで学んできた数学が身近なところで活用されていることを理解し、数学の授業の意義を感じ取ることができたようであった。

（参照 地域協働ニュース第10号）

運営指導委員会

運営指導委員会の構成員

氏名(敬称略)	所属
佐川 哲也	金沢大学地域創造学類長
田中 謙次	福井経済同友会人づくり委員会副委員長
宮本 昌彦	鯖江市産業環境部長
丸山 繁喜	鯖江市中学校長会長
齋藤 多久馬	鯖江市社会福祉協議会 会長

第1回運営指導委員会

日時 令和元年11月12日（火）

13:05～13:55（5限目） 公開授業（全学年の各授業）
13:55～14:10 休憩
14:10～15:30 第1回運営指導委員会

第2回運営指導委員会

日時 令和2年2月14日（金）

13:05～13:55（5限目） 公開授業（1・2年総合）
13:55～14:10 休憩
14:10～15:30 第2回運営指導委員会

議事録

令和元年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 第1回 運営指導委員会 議事録

- 1 日 時 令和元年11月12日（火） 14：10 ～ 15：30
- 2 場 所 鯖江高等学校 視聴覚室
- 3 参加者 佐川 哲也 金沢大学地域創造学類長
田中 謙次 福井経済同友会人づくり委員会 副委員長
宮本 昌彦 鯖江市産業環境部長
丸山 繁喜 鯖江市中学校長会長
齋藤 多久馬 鯖江市社会福祉協議会 会長
油谷 泉 福井県教育庁高校教育課 課長
濱田 敏功 福井県教育庁高校教育課 参事
高芝 和紀 福井県教育庁高校教育課 企画主査
福嶋 洋之 校長
浅野 裕治 教頭
渡辺 康仁 教務部長
中山 孝士 進路指導部長
山田 雅彦 地域協働推進事務局長
山田 繁 地域協働推進事務局員
千葉 章代 地域協働推進事務局 書記

4 内容

(1) 校長挨拶

文科省が新しく打ち出した教育改革推進事業のもと、地域の地域による地域のための高等学校作りに今年度より取り組み始めた。

実績があり活動が想像できるものとは異なり、当初心配ばかりが募るものであったが、鯖江市、鯖江商工会議所の全面的バックアップのもと活動を展開することができた。お礼申し上げます。

運営指導委員の方にはさまざまな角度からご指導ご助言を頂きたい。

(2) 県教育委員会挨拶

福井県では丸岡高校のグローバル型と鯖江高校の地域魅力化型の2校が文科省より指定を受けた中で、他学校のモデルとなり県全体の教育が進んでいく事に期待している。

キーワード「地域協働」を核にした3ヶ年のカリキュラム開発が、持続可能である事が大切。色々なご意見を頂き今後の活動推進に役立てていきたい。

(3) 出席者紹介

(4) 概要報告

- ・これまでの取組について
- ・今後の予定について
- ・次年度以降について

(5) 運営指導委員からの指導・助言

〈佐川氏〉

地域の色々な分野から意見等を貰える仕組み作りが構築されていて素晴らしい。

生徒が地域に貢献できる事が増えていく事に大変期待している。

学校としての成果は見えてくると思われるが、生徒一人ひとりにどんな風にプラスに繋がるか考える必要がある。

高校生が地域の中でどのような存在・役割を果たしているのか、生徒一人ひとりが考え理解し行動していける事が望ましい。

学校の取組みの発信について。例えばユネスコスクール登録にチャレンジする等、取組・目標を持続的に保てると良い。

〈田中氏〉

生徒達には地域企業は解り難い部分があると思われるが、その膨大な数の地域企業が福井の経済を支えている。福井経済の基盤である地域経営・地域企業の発掘・掘り起こしをする事によって地域魅力化が望める。

既存業種の磨き上げも大事だが、破壊的なイノベーションに到達すべく、伝統産業等の福井に來なければできない事を追求し、身近な事を知る事から始める事が大事である。

翻訳家として先生方が地域を熟知する事が重要である。

〈宮本氏〉

今後も鯖江市出前講座などを役立てて貰いたい。

日本人のみの交流・日本内部だけでの活動では、自己肯定率の上昇は難しい。

地域課題を取上げた時、企業の問題や商店街の問題に目が行きがちだが、LGBT等の人権的な事にも今後地域課題として目を向けるべきだと考える。

〈丸山氏〉

生徒たちが落ち着いて良い表情で授業に取り組んでいて大変良かった。

体操や駅伝・吹奏楽など、よく頑張っていて素晴らしい。

中学での取組が高校での取組みに繋がる、中学・高校の接続により益々魅力ある学校作りになるのではないかと考える。

一旦県外に出てもまた故郷福井に戻って来る事を願う。

〈齋藤氏〉

授業ではプロジェクターに日が射して見難かった。ブラインドやカーテン設置の要請をしてはどうか。

生徒達の消極的な所が見受けられた。積極性を育て、ディスカッション思考を高めるべきと考える。

鯖江だけを地域と捉えて良いか？福井県を地域と捉えるか？

希望大学に入る事も大切，そして世界で飛躍出来る実力ある人材が地元に戻って活躍する事が大切であろう。その為には偏差値だけではなく，総合的な人格形成・世界に羽ばたく人材を育てる事が極めて重要である。

県内企業の求人情報・状況等をタイミングよく全国各大学等に発信し，人材確保の努力を。指導力や研究能力には人間を育てる色々な側面をもち，その総合的な力が地元を支え，日本を支え，世界を支えている。

〈油谷氏〉

高校魅力化アンケートは初年度データとして大変重要。今後さらに分析していく中で地域魅力化に生かせる。

数字の低いウィークポイントに目を向けると，いかに外に生徒を出すか？が要になる。

地域の課題に取り組む時に，インターネットで調べて解決させるのではなく，実際地域に出て生きた話を聞き，自分たちで考え挫折も味わう事でワンランクアップが狙える。

この様なフィールドワークにより，色々な立場・視点の意見を聞き，高校生の視点でどの様にアプローチしていくかを熟考していく術を身につけることができるのではないかな。

地域の人とのネットワークが日常的になると，生徒の探究心も深まり研究が更に進む。

学校自体が生徒の活動や変容を評価していく事が大切である。

(6) 学校再編について 〈教頭〉

令和2年度より「探究科」「普通科スタンダードクラス」「普通科スポーツ・健康福祉コース」「普通科 IT・デザインコース」でスタートする。

〈宮本氏〉

Q. カリキュラムは生徒の意見を取入れるのか？

A. 先ずはカリキュラム作りを本校の取組としてまとめ，他県他校に発信していけるものにしていきたい。

Q. 鯖江市 JK 課企画の全国高校生まちづくりサミットの中で，生徒自分達自身で問題提起・解決に取り組む発信する事で，自己肯定感・他人を思いやる気持ちが培われていくと感じた。

A. 今後総合的な探究時間の中で，自分達が疑問に感じた事等を探究していく時間が増えていく見込である。

〈丸山氏〉

Q. 武生高校・藤島高校の定員増や私立高校の無償化に伴い，鯖江高校の展望は？

A. 〈油谷氏〉定員は進路指導調査等の結果を踏まえキャパシティなども含め考察，県としては新しくスタートする鯖江高校に大いに期待している。

〈田中氏〉

山形県鶴岡市の慶応大学先端生命科学研究所では、地元の高校生が大学の研究を手伝うという体験の中で慶応大学を目指す様になる、そして後々慶応大学卒業後に、この研究所に戻って来るという図式ができています。

中学生の職業体験では、中学生が出したアイデアを実際に採用する時、本気で取り組む子ども達の目はキラキラと輝きよりよいアイデアが出てくる。大人も本気・子どもも本気になる事から生まれてくる物は絶大である。

デンマークでは、小学生と議員が普通にコミュニケーションを取る。小学生と議員の関係性が子どもの頃からできている。大人と子どもが本気で討論出来る様な社会作り・学校作りを目指してほしい。

〈齋藤氏〉

社会も学校も時代とともに変わってきた。今後鯖江高校が素晴らしい学校へと変わっていく事に期待したい。

進路指導先生の影響で生徒の進路が変わった事実もある様に、先生の影響力は甚大、聖職と言われる所以。今後の先生方の活躍に期待する。

(7) その他

- ・令和2年2月ごろに第2回運営指導委員会を開催予定

5 閉会挨拶

令和元年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業
第2回 運営指導委員会 議事録

1 日 時 令和2年2月14日(金) 14:10 ~ 15:30

2 場 所 鯖江高等学校 視聴覚室

3 参加者 (欠)佐川 哲也 金沢大学地域創造学類長
田中 謙次 福井経済同友会人づくり委員会 副委員長
宮本 昌彦 鯖江市産業環境部長
(欠)丸山 繁喜 鯖江市中学校長会長
齋藤 多久馬 鯖江市社会福祉協議会 会長
山本 泰弘 福井県教育庁 高校教育課 参事
高柴 和紀 福井県教育庁 高校教育課 企画主査
福嶋 洋之 校長
浅野 裕治 教頭
渡辺 康仁 教務部長
中山 孝士 進路指導部長
山田 雅彦 地域協働推進事務局長
山田 繁 地域協働推進事務局員
千葉 章代 地域協働推進事務局 書記

4 内容

(1) 校長挨拶

今年度一年間にわたり、鯖江市・鯖江商工会議所との連携協定をもとに、校外講師の授業や、校外へ出でのさまざまな活動・発表をすることができた。地域から協力をいただくことで、教育活動が校内で完結することなく、新たな学びにつながっていると感じる。

生徒がそれまで漫然と感じていた地元鯖江市・越前市・丹南地区について、改めて色々な活動や人を知ることができている。生徒自身がこれまで以上に地元とのつながりを実感し、さらに興味をもつことができたらありがたい。本校の学び方等を、さまざまな形で県内・全国に発信していきたい。

丹南地区の高等学校再編事業がいよいよ今春スタートする。地域協働事業を、新しい全学科・全コース・全専攻で、今まで以上に充実させていきたい。地域との協働によって、新たなカリキュラム開発を目指していく所存である。委員の皆様より、ご指導ご助言をいただきたい。

(2) 県教育委員会挨拶

委員の皆様や先生方の、事業への積極的な取組に感謝する。

第1回運営指導委員会での、委員の皆様からの貴重なご意見を受けて、地域ならではの新しい価値を創造し、地域を支える人材育成に向けて、地元企業等と連携したカリキュラム開発・研究開発に取り組んでいる。今後の更なる研究成果に多いに期待する。第1回に続き、

ご指導・ご助言，忌憚のないご意見をいただきたい。新しく生まれ変わる鯖江高校の研究開発が一層充実することを祈念する。

(3) 概要報告

・これまでの取組について

第1回運営指導委員会後の音楽特別授業や数学特別授業，さまざまな取組について報告。鯖江高校・鯖江市・鯖江商工会議所の連絡協議会を学期に一回開催。12月の第二回連絡協議会の中で，

活動の内容を保護者や地域の方々へPRしていくと良いのでは？ PR方法を検討すべき

生徒の声を聴く機会を設定すべき

生徒の自主性を育む授業を目指すべき・・・ 貴重なご意見をいただいた。

・次年度に向けて

新鯖江高校スタートに向けて，多様な学科・コースの特色に応じた更なる地域協働事業の展開が必要である。

令和2年度入学新1年生の，各学科・専攻・コースの3年間の流れについて，各教科にとどまらず，教科をまたいだ授業を計画している。

教員研修会を充実していくなかで，年度の早い時期に研修会を設定することで，教員が共通理解のもとスタートができるようにと考えている。

(4) 運営指導委員からの指導・助言

〈田中氏〉

総じてとても良いと感じた。

地域協働を来年度は全ての教科で絡めるとするのは非常に重要なポイントであろう。進学校も職業系の学校も，どこも授業時間が少ないため，表面的な部分を流すにとどまり，最終的な局面でありきたりな結論に陥りがちである。全ての教科で関わりをもつことで，この問題が少し解消されるのではないかと期待する。

今日の授業を見て“伝わる”プレゼンには程遠いと感じた。発表する方も聞く方も，相手を見ないため，コミュニケーションが生まれずとても残念であった。たった一人，紙を持たずに自分の言葉で喋った生徒のプレゼンは相手に伝わったと感じた，それがとても大事である。

高校に入って，いきなり地域について考える，いきなり自分の意見を伝える，というのは難しい。幼少期から地域の多様な方と触れ合い，多様な考え方を認める経験を重ねることで，小学生・中学生と自分の考え方のベースができ，地域でどんな問題があるのかを自然と意識する。それをもって，高校で具体的な形にするというのが，10年先を見据えた時に大切になる。

田舎の高校だからこその尖った教育システムに挑戦することで，東京から引っ越してでも福井の教育を学ばせたい！と評価される学校となる。

地域を知るということは，地域の問題を知るということ。常に当事者意識をもって，更に更に地域の問題を出していく必要がある。

地域の多くの課題に，ガッツある高校生が本気で取り組むことで，魅力ある地域になっていく。

教員研修会は，教員内だけでなく，それぞれが色々な業界の研修会に参加する等して，そしてもち寄ったものを議論していくと，またより充実したものとなる。

〈宮本氏〉

Q. 地域協働ニュースはどの様に活用しているのか？

A. 地域協働ニュースと、現在作成中の広報誌を、今後保護者や市内中学に配布したり、鯖江市役所・鯖江商工会議所に置かせていただけたらと考えている。活動を鯖江高校ホームページにもアップしているが、更なるPRが必要である。

〈宮本氏〉

活動をホームページにアップしたり、地域協働ニュース・広報誌を、保護者や市内中学に配るのは良いPRになる。

福井銀行の数学特別授業のような、生徒が自分の将来に役立つと感じ、興味関心をもったことがらについての学びは身につく。学びたい欲求を引き出すことが大事であろう。

生徒のフィールドワークに加え、先生方にも地域に出て行ってもらって、福井大学や商工会議所などさまざまな方に協力いただきながら、地域の色々な課題や課題解決を知っていてもらいたい。

(地域協働ニュース・広報誌を、鯖江市役所に置かせていただくことに快諾いただいた)

〈齋藤氏〉

今日の授業を見て、自分の意見を発表する姿勢ができてなくて残念であった。

発表者の緩慢な態度や小さな声など、基本的なことができていない。当然指導されるべきところが指導されてないことに違和感がある。

福井県では、福井新聞が絶対的という側面があり、ものごとの多様性の理解に欠ける恐れがある。複数の新聞を並べてさまざまな意見を比べ、ものごとの多様性を理解した上で生徒が各々の意見をもつべきではないか。

批判精神を教えることは、教育の根幹。新聞一紙では誘導記事に騙されがちで、批判精神も生まれにくい。福井県では新聞を授業に取り入れることは難しい。

発表をしたら相手の意見を求める姿勢をもつ、批判を浴びる覚悟をもつ。反論がなければ討論にならない。

作文の起承転結は教えられても、論文形式が教えられていない。国語教育における今後の課題であろう。

地域だけを学んでも地域を理解することはできない。他地域を知ることで、地域が位置づけられる。

〈山本氏〉

専門的なことを教わることができていてありがたい。市役所や商工会議所・企業の方に鯖江高校に入っただき、生徒の刺激になっていて素晴らしい。次はどうやって地域に出ていくかが課題である。

地域の課題に取り組むときに、ネットで調べたことを鵜呑みにして解決をしていては片面的な部分しか見えてこない。多面的な部分は実際地域に出ないと分からない。

地域に出て、地域の課題を見付けるときに、生徒自身が興味関心をもつことが大切である。先生が課題を与えるのではなく、生徒自身が好きなことに取り組ませる。地域の課題を自分の課題と捉えることで、本気になって取り組むことができる。

全ての教科を絡めた授業改革は大変素晴らしい。

先生や生徒が話しているときに、聞いていない生徒が目立つ。しっかり相手の話を聞くという授業改善で、プレゼン力・質問力は上がる。

実感して課題に取り組み、鯖江高校独自のものをつくりあげる。世界に繋がっているという意識をもって地域探究を行うことで、鯖江高校がより強みをもつことができる。

〈田中氏〉

大学や企業・社会が求める人物像に「ならないといけない」という受動的な姿勢ではなく、「求める人物像に自分がマッチングし、更にそれを超えていく!」というアグリッシブさをもって貰いたい。

企業の面接で、企業が求める人物像になりきって面接を受け、社会に出てから問題が起きるということは多々起きている。

自分をごり押しするのではなく、周りの人と関わり合いをもちながらお互いを認め合い、自分を成長させていくことが大切である。大学や企業・社会が求める人物像に寄っていく必要はない。

〈地域協働〉

新年度より、総合的な探究の時間の中で、グループや個人の興味・関心に沿った探究活動を行っていく。校外に出て行ったり、色々な方に依頼をして学校に来ていただき、フィールドワークを通して色々な方と関わり合いをもちながら探究学習を深めていく。

〈田中氏〉

Q. 部活動をしていない生徒等に、年間インターンシップをさせてはどうか？

地元の企業で自分探しをする。自分は必要とされていると感じる中で達成感を共有し、年間を通して一貫性が出てくる。さまざまな問題に直面した時に本気で取り組むことができる。

A. 地域事業主わどうさんより、生徒と一年間一緒に考えたりする活動が何かできたらと、お話しをいただいている。実現に向けて検討していく。

〈山本氏〉

生徒が成功体験・失敗体験を重ねて変容していく中で、自分の評価をどうしていくか、自己肯定感をどう上げていくかが大切である。自分が成長したと感じられるものが必要である。

(5) その他

- ・ 令和2年度運営指導委員会 第1回 10月
- 第2回 2月 開催予定

その他の取組

「世界津波の日」2019 高校生サミット in 北海道 への参加

令和元年9月10日、11日に実施された「世界津波の日」2019 高校生サミット in 北海道に、本校から2年生3名が参加した。この大会は太平洋沿岸の国々を中心に日本を含む世界44ヶ国の高校生が一堂に会し、津波や地震などの災害に備える意識の向上のため、高校生に何ができるかについて話し合うイベントで、ディスカッションを含むすべてが英語で進行された。本校から参加した生徒は、前年度に地域の防災について探究してきたことをもとにして、海外の高校生と意見を交わし、自分たちの探究してきたことがさらに深められただけでなく、様々な人たちと交流の輪を広げることができた。

(参照 資料 地域協働ニュース第4号)

課題解決型学習発表会への参加

本校は、福井県教育委員会・福井県教育総合研究所が行っている「課題解決型学習モデル開発事業」のモデル校となっており、地域協働での活動と絡めながら取り組んできた。令和2年2月11日に実施された成果発表会に、本校から1年生1グループ、2年生1グループが参加し、ポスター発表を行った。

マスコミの取材状況

- 令和元年6月13日(木) 鯖江高校・鯖江商工会議所・鯖江市役所の相互連携協定締結
 - ・株式会社福井新聞社
 - ・日刊県民福井
 - ・福井テレビジョン放送株式会社
 - ・福井放送株式会社(FBCテレビ)
 - ・丹南ケーブルテレビ株式会社
- 令和元年7月31日(水) クッキング部が地元野菜の吉川ナスを使ったレシピを発表
 - ・丹南ケーブルテレビ株式会社
- 令和元年10月30日(水) 福井新聞社による新聞記事特別講座
 - ・株式会社福井新聞社
- 令和元年12月8日(日) 誠市での民族音楽の発表
 - ・丹南ケーブルテレビ株式会社
- 令和2年1月28日(火) 数学 特別授業
 - ・NHK福井放送局
 - ・丹南ケーブルテレビ株式会社

資料

地域協働ニュース 第1号

鯖江高校・鯖江商工会議所・鯖江市役所の相互連携協定締結！！

6月13日（木）に、鯖江高校・鯖江商工会議所・鯖江市役所の相互連携協定が締結されました。鯖江高校の教育改革を、行政・経済界が全面的にサポートしてくれます。

地域に根差した学校づくりを推進し、将来、地域で活躍する市民を育成するという目標の第一歩となりました。



3団体代表者が署名



報道機関による記念撮影



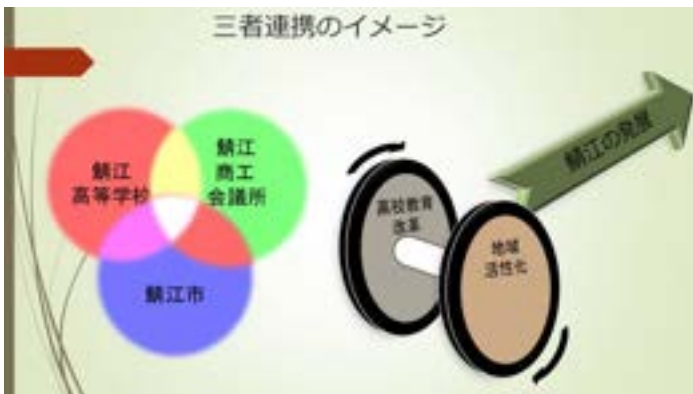
締結された相互連携協定書



「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」説明①

今後、生徒向けパネルディカッションや授業公開、全教科での地域連携などを通して学校全体で地域との協働に取り組んでいきます。

この事業を通じて、鯖江高校の魅力度アップだけでなく、持続可能な鯖江の発展に寄与していきたいと考えています。



「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」説明②

クッキング部が地元野菜の吉川ナスを使ったレシピを発表

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」に指定されたことを受け、今年度のクッキング部は、地元野菜である「吉川ナス」を使ったレシピづくりに取り組んできました。

「若者にも食べやすい料理」「吉川ナスの特徴を生かした料理」「油との相性がよい」などと、部員同士がアイディアを出し合い、パスタ・キーマカレー・ドリアの3つに決まりました。

7月18日（木）には、鯖江市役所農林政策課にご協力いただき、生産農家さんのビニールハウスで収穫体験も行いました。収穫の方法だけでなく、品種改良されていない「吉川ナス」独特の栽培の難しさなど、多くのことを学びました。



収穫体験で収穫方法を教えていただいている様子



青柳さんから助言をもらいながらの調理

そして7月31日（水）に、お世話になった生産農家の方々、鯖江市役所の方々、そして本校卒業生で鯖江市内の洋食ビストロ「シトラス」の青柳彰彦さんをお招きし、試食会を実施しました。青柳さんから調理の指導を受けながら調理し、完成した料理を、マスコミ関係者を含めみんなで堪能しました。その後、クッキング部の取り組み発表や生産農家さん、青柳さんからのご高評をいただき、和やかな雰囲気です試食会を終えることができました。



ご招待したみなさんを交えての試食



生産農家さんからのご高評



みんなで集合写真

お世話になった生産農家の方々、鯖江市役所の方々、青柳彰彦様、そして本校クッキングの活動にご協力いただき、誠にありがとうございました。

地学基礎の特別授業を行いました

令和元年8月22日(木)夏休み課外の時間に、地域協働事業の一環として、2年文系の地学基礎を受講する生徒に外部講師による特別授業を行いました。

講師として株式会社 田中地質コンサルタント 代表取締役 田中謙次氏をお招きし、「鯖江の地質や地形から分かること」をテーマとして授業をしていただきました。

まずは地学とはどのようなものかを、地球の歴史、地球と宇宙、生物の歴史、地震について説明し、そして鯖江の地形や自然の特徴などについて講義をしていただきました。



先生ご自身の体験エピソードも交えた講義の様子

その後グループに分かれて、昔の地図や図書、インターネットなどを活用して、鯖江の地図に特徴的な地形(自然堤防、扇状地、断層など)に色をつけたり、特徴的な地名からその語源を調べていく作業をしていきました。



鯖江の自然堤防や扇状地をマーキングするグループ

地名からその語源を調べたり

自分たちで想像を膨らませるグループ

「稲寄町は昔、稲の収穫が半端なかったんじゃない?!

生徒は、身近な場所の特徴や地名について改めて興味をもったようで、熱心に作業に取り組んでいました。

「世界津波の日」2019 高校生サミット in 北海道に参加しました

令和元年9月10日(火)11日(水)の2日間、北海道札幌市において「世界津波の日」2019 高校生サミット in 北海道が開催され、本校から3年1組の今村あかねさん、鈴木陽さん、森下明依さんの3名が参加しました。

太平洋沿岸の国々を中心に日本を含む世界44ヶ国の高校生が一堂に会し、津波や地震などの災害に備える意識の向上のため、高校生に何ができるかについて話し合う大変大きなイベントでした。



世界44ヶ国、約520名の参加者

サミットは全て英語で進行し、分科会でのディスカッションももちろん英語です。鯖江高校は日本国内の4校、ペルー、ニュージーランド、ベトナム、ソロモン諸島の高校生と同じ分科会となりました。各学校が災害から学ぶことについてプレゼンテーションを行い、高校生ができることについてグループディスカッションを行いました。ネイティブに英語を話す高校生もそうでない生徒も、協力しながらディスカッションをしている姿、そして一生懸命に自分の思いを伝えようとする本校の生徒たちの姿は感動的でした。

Let's have a free and open "group discussion"!



国によって災害訓練に対する意識の違いが大きいなあ…



休憩時間やレセプションでは、臆することなく海外の生徒に積極的に話しかけ、写真を撮ったり連絡先を交換したりと、様々な国の高校生と親睦を深めることができました。



笑顔は万国共通のコミュニケーションツール！)



“Are you on Instagram?”
 “Do you use Facebook?”
 “Let’s exchange contacts!!”

2日目の北海道庁公館における記念植樹では、鈴木さんがニュージーランドの高校生の介添人として、2人で協力してエゾヒガンザクラの記念植樹を行いました。また、最後の総会・閉会式では、各グループ代表によるプレゼンテーション、大会宣言の発表などが行われました。

来年以降も参加して、良い刺激にして欲しい！



インカラナテ(アイヌ語でこんにちは)宣言
 私たちは、自然の恵みに感謝し、時に災害をもたらす自然の脅威について理解を深めながら、私たちにとってかけがえのない自然を守り、自然災害に備えることを宣言します。

この2日間を通して、防災に関する知識や意識の向上を図れただけでなく、世界中の高校生と交流できたことは3人にとって非常に大きな刺激になりました。肌の色、宗教、文化など、様々な違いはあっても、思いがあれば分かり合える。そんな貴重な経験ができた2日間になりました。

「子どもの発達と保育」の出前授業を行いました

令和元年10月9日（水），地域協働事業の一環として，3年文系の「子どもの発達と保育」を受講する生徒たちに，講師として鯖江市保育・幼児教育室 森友万貴氏をお招きし，「保育の現状について」をテーマとして出前授業をしていただきました。



実際に保育士として活動されていた先生の経験をもとに，とてもやさしい語り方で生徒にわかりやすく説明していただきました。



まずは前もって提出してあった質問も含めて保育園と幼稚園の違いとこども園についてや，制度のこと，園の数，必要な資格など，生徒が今必要としている内容を具体的に説明していただきました。

続いて保育園での活動の様子を撮影した非常に多くの写真をスライドに映して，子どもたちの生き生きとした様子を見せながらどのような活動があるのかを分かりやすく教えていただき，生徒も自分の小さいころを思い出しながら先生の話に聞き入っていました。



そして保育士は子どもたちからパワーをもらい，また保護者から感謝される，とてもやりがいのある仕事であると教わりました。



最後の質疑応答では，生徒も積極的に質問しており，授業が終わった後でも先生に直接質問をしている姿も見られました。

第1回運営指導委員会，並びに公開授業を行いました

令和元年11月12日（火），地域との協働による高等学校教育改革推進事業第1回運営指導委員会の開催に合わせて，公開授業を行いました。5限目の授業を公開授業として，すべての授業を運営指導委員のほか，他校の教員や県内の教育関係機関の方々に参観していただきました。

今回の公開授業では，各教科でテーマを設定し，教科の代表者が「地域との協働」だけをテーマにするのではなく，「ICTの活用」や「アクティブラーニング」など，授業の改善を目指した授業を実施し，特に重点的に参観していただきました。

各教科の授業内容は下記のとおりです。

教科	授業者	授業クラス・科目名・単元名	テーマ
国語	大川千佳	2-3 古典 「道長、伊周の競射」	「主体的・対話的な学び」を取り入れた授業
地歴 公民	石川賀敬	3-4 政治経済 「SDGsって何だ？」	地域との協働 「SDGs」を取り入れた学習
数学	山田剛史 渡辺尊則	3-1 数学I・A・II・B・III 入試問題演習	「ICTの活用」と「数学的活動」を取り入れた授業の研究
理科	山田雅彦	2-5 地学基礎 「日本の自然環境」	身近な防災について
英語	今井信義 杉山正晃	2-1 コミュニケーション英語II 「What is the True Meaning Of Mottainai」 1-3 コミュニケーション英語I 「The Bicycle:An Old Friend and a New Friend」	ICTの活用

なお3年4組の政治経済の授業では，地域共同事業の一環として，鯖江市めがねのまちさばえ戦略課から伸倉由紀氏と五十嵐浩司氏をお招きし「SDGsって何だ？」というテーマで授業をしていただきました。



「SDGsって何だ？」

生徒も積極的に発言し，鯖江市の取組みについて理解を深めました。



身近な防災について，各自の避難場所などを，スマホやパソコンを使って，それぞれ調べて，防災意識を高めました。

音楽の特別授業を行いました。

令和元年11月14日（木）、民族楽器の収集家である森眞一郎氏をお招きし、3年生の音楽選択者を対象に特別授業を行いました。

カリンバ、カホン、アンフロン、アフリカン太鼓といった、東南アジアやアフリカの伝統的な民族楽器の紹介と演奏法をご指導いただきました。



初めて見る楽器や音色に生徒たちは興味津々です。個別に指導いただき、アフリカン太鼓では合奏にも挑戦しました。



今後は、今回の授業でご指導いただいたことを中心に練習を続けていく予定です。

今後は、12月8日（日）に鯖江市誠照寺で開催される「誠市」で練習の成果を発表します。さらに、その場に参加いただいた方々に楽器の演奏法を生徒が教え、一緒に体験してもらう機会も提供することを予定しています。

音楽鑑賞講座を行いました

令和元年12月11日(水)、地域協働事業の一環として、地域で活動する音楽家3名の方に来校していただき、1年生2・4組の生徒を対象に音楽鑑賞講座を行いました。

来校いただいた講師の方は、声楽家ソプラノ/天勝まゆみ氏、フルート奏者/辻好氏、ピアノ奏者/嶋崎実紀氏です。日ごろの活動を教えていただくとともに演奏を聴き、地域の芸術活動について理解を深める授業をしていただきました。

和やかな雰囲気の中まずは自己紹介も兼ねて、音楽への情熱・日々の音楽活動への姿勢などを講義していただきました。

高校生の時は大学進学が目標であったこと、県外の大学卒業後は大好きな福井に戻って音楽を届ける仕事を選んだこと、音楽には力があると実感する中で皆さんにその力を知ってもらいたいと強く願っていることなど、生徒たちは興味深く聞き入っていました。



クラシックからポピュラー、時節柄クリスマスメドレーも交えて計7曲を演奏して頂きました。生徒は、曲名を聞いただけではピンと来なかった曲も演奏が始まると「あ、知ってる!」と目を輝かせたり、自然と体でリズムを取ったりと各々楽しそうに聴き入っていました。



“譜捲り”という仕事があることなど、社会に出てからの選択肢が未知数に広がっていることも感じていた様です。



ピアノの流れる様な心地良い伴奏、フルートの温もりや潤いを感じる旋律、そしてソプラノの伸びやかな朗々とした唄声、とても贅沢な時間を過ごし、最後に生徒代表より「生き生きとした姿が印象的、音楽の楽しさ大切さを改めて感じました」と感謝の言葉が述べられました。

民族音楽の発表を行いました！

令和元年12月8日（日）、鯖江市誠照寺で毎月一回開催されている蚤の市「誠市」において、3年生音楽選択の生徒が民族音楽の練習成果を発表しました。



大勢の観客を前に緊張した様子でしたが、練習の成果を発揮しようと頑張る姿が印象的でした。耳慣れない音色を聞いた観客からは、「こんな音ができるんだ」「あんな風に演奏するのか」といった声もあり、生徒の演奏が終わるたびに温かい拍手が送られました。



鯖江高校で地域協働事業が本格化し、地域の方に本校にお越しいただく機会が増えてきました。そんな中で、今回は逆に、音楽選択者が地域に出て行って日頃の授業の成果を発表するという、貴重な機会となりました。これからは、音楽に限らず、生徒が地域で活躍する機会を増やし、鯖江高校の地域協働事業、そして鯖江市を盛り上げていきたいと考えています。



数学の特別授業を行いました！

令和2年1月28日（火）、2年2組の生徒を対象に、福井銀行様と連携した数学の特別授業を行いました。

「数学B」で学習した数列が、実際の生活のどのような場面で出てくるのかを知ってもらい、数学への興味関心を高めてもらうことを意識した特別授業でした。

最初に、銀行の業務について、銀行がお金を世の中のお金を回していることを、様々な例を示しながら説明していました。

その後、「金利」の話題に入り、「複利」などの金利の仕組みを理解するのに等比数列を使うことを学びました。また、ローンを借りる時に必ず問題となる「元利均等返済」と「元本均等返済」の違いについて、等差数列と等比数列との違いを使いながら学びました。

数学で学んだことが、実際の生活にどのように活用されているのか理解するよい機会となりました。

また、福井新聞、NHK、丹南ケーブルテレビなどのマスコミの取材も入り、ニュースにも取り上げられ、本校の地域協働事業をアピールする機会となりました。



第2回運営指導委員会、ならびに公開授業を行いました

1. 公開授業

令和2年2月14日（金）、地域との協働による高等学校教育改革推進事業第2回運営指導委員会、ならびに公開授業を行いました。

5限目の授業を公開授業として、運営指導委員の方々に参観していただきました。1年生は新聞記事の読み合わせ、2年生は進路に関する学習のクラス発表会を行いました。



各学級のグループ学習や個人でのプレゼンテーション発表を行い、運営指導委員の方々にさまざまな観点・角度から参観していただきました。

2. 第2回運営指導委員会

公開授業に引き続き、第2回運営指導委員会を開きました。



まず本校事務局より今年度の取組みや次年度の予定などについて概要報告を行い、続いて運営指導委員の皆様からそれぞれの立場での指導・助言をいただきました。

そこでは下記のようなご意見が出されました。

- ・地域協働を来年度は全ての教科で絡めるとするのは非常に重要なポイント。少ない授業時間の中で、いかにそれぞれの活動を結び付けるか。
- ・生徒に課題を与えるのではなく、生徒の興味関心を引き出し、探究させることが大切である。
- ・発表をしたら相手の意見を求める姿勢をもち、討論をしていくことが重要である。
- ・地域の課題を自分の課題と捉え、当事者意識をもつことが必要である。
- ・地域の課題を追求すると同時に、他地域を知ることも重要である。

今後、これらのご意見を取り入れながら、地域協働事業が充実したものになるよう、取り組んでまいります。

鯖江高校 地域協働だより

令和二年
第一号

1. 地域協働って何？



地域の方々、学生、保護者、民間企業、団体・機関等の幅広い方々の参加・協力のもと、地域全体で高校生の学びや成長を支えていただくとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互に連携・協働して行う様々な活動です。

つまり、生徒が地域の皆さんに協力いただきながら、

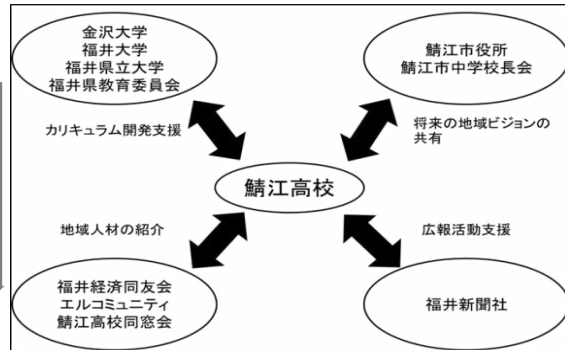
鯖江市、丹南地区、福井県について学び、地域の歴史、文化、産業などに対して広く興味をもち、理解を深めてもらうということです。そして、

- 地域の伝統や文化を継承し、地域への愛着と誇りをもち、地域の未来を育てる市民
- 将来の地域コミュニティーを支え、多様な価値観を共有し、チャレンジ精神を持つ市民
- 持続可能な地域社会の形成に向け、貢献意識を持ち、自ら考え行動する市民

になってもらおう
という事業です。



HP: <http://www.sabae-h.ed.jp/>



2. 今年一年どんなことがあったの？

これまで、このようなことに取り組んできました。

3. 何を学んだの？



3つ紹介します!!

クッキング部が地元野菜の吉川ナスを収穫、レシピを発表しました！

令和元年7月18日(木)鯖江市役所農林政策課にご協力いただき、生産農家さんのビニールハウスで吉川ナスの収穫体験を行い、吉川ナスを使った Pasta・キーマカレー・ドリアのレシピづくりに取り組みました。
本校卒業生で鯖江市内の洋食ビストロ「シトラス」経営の青柳彰彦さんのご指導のもと、試食会を実施。マスコミ関係者を含めみんなで堪能しました。



「世界津波の日」2019 高校生サミット in 北海道に参加しました！

令和元年9月10日(火)11日(水)の2日間、北海道札幌市において「世界津波の日」2019 高校生サミット in 北海道が開催され、本校から3年生の生徒3名が参加しました。太平洋沿岸の国々を中心に日本を含む世界44ヶ国の高校生が一堂に会し、津波や地震などの災害に備える意識の向上のため、高校生に何が出来るかについて話し合う大変大きなイベントでした。サミットは全て英語で進行し、ディスカッションも英語。この2日間を通して、防災に関する知識や意識の向上を図るだけでなく、世界中の高校生と交流できたことは非常に大きな収穫になりました。

民族音楽を発表しました！

令和元年12月8日(日)鯖江市誠照寺で毎月一回開催されている蚤の市「誠市」において、3年生音楽選択の生徒が民族音楽の練習成果を発表しました。耳慣れない音色を聞いた観客からは、「こんな音がするんだ」「あんな風に演奏するのか」といった声もあり、生徒の演奏が終わるたびに温かい拍手が送られました。



4. いろんな方にサポートしていただいているの？



なんと！！鯖江市、そして鯖江商工会議所の強力なサポートをいただくことになりました。

また運営指導委員では、金沢大学、鯖江市、鯖江社会福祉協議会、民間企業、鯖江市中学校長会の代表の方々にご指導・ご助言をいただき、地域協働事業が充実したものになるよう取り組んでいます。



運営指導委員会

鯖江高校の魅力度アップだけでなく、持続可能な鯖江の発展に貢献していきたいと考えています。

さあ！2020年も地域へ出てチャレンジしよう！！